

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2011年11月1日

98号



魚の処理場

魚の孵化場の建設 (10月5日)

養殖場の準備が本格化

九月末、魚の孵化作業場作りの為の資材として使われるレンガ、砂、セメントが、手配した業者の船で到着しました。四千個のレンガと千袋のセメント、砂の荷降ろしは、午前中で終わりましたが、すぐに、砂袋を回収に来るといので、その後も作業が行われました。

中田所長は、新しい建物の一階を使って魚の孵化の為の設備を作られ始めました。まず親魚の為に二千リットル入る大きな水槽を三個作ることにになり、鉄枠と板で型枠を作り、そこにセメントを流しこみました。また、同時に魚を処理する部屋づくり、排水工事も進められています。

養殖の様子

九月に入り、大きなパクが釣れるようになりました。あの時期はピラニアも姿を見せないで、肉を餌にして大きなパクが釣れるという事があり、水位が異常に上がった影響かと思われます。大きなパクは、孵化の種魚として育てるために第一の池に入れました。

現在、青木先生とファンソーサが、毎日ボートを使ってパク釣りに専念しています。毎日数匹釣れます。大きいものは六・五キロもありました。

養殖池のパクも元気に育っています。特に第三の池に餌を撒くと、パクが群をなして勢いよくパクつきます。中には飛びはねるものもあります。(伊達氏の報告より)



レンガを運ぶ大和田氏



砂とセメントを運ぶ労働者

パク養殖の計画

二〇一〇年九月二十二日

三箇所の養殖場を訪問する。

(中田、佐野、上山)

一・アスンシオン大学養殖部
マルゴバレリオ教授はオリンポのパク養殖を指導した実績を持っている。

二・ヒルデブランド養殖場
アスンシオンから約二百キロ、エステ方向、ブラジルの技師の指導の下、採卵、孵化、仔魚、ファイルの販売、食堂まで二年半で本格的に行われている。非常にきれいでした。

三・アルゼンチンの養殖場

アスンシオンから四〇km

(パラグアイの国境から七km)

ネストルグロメンデ技師の案内でパクの孵化の仕方から飼いや、えさの製造、ファイルの作り方まで見学、自然に近い形で、パクの養殖がされている。十月十五日から採卵、孵化を開始する予定とのこと

今回の訪問で採卵、孵化、仔魚を育てることが一番重大であることがわかりました。

パクー一匹で五〇万個以上の卵を産卵するそうです。これを孵化し育てることが養殖の第一歩であり、これなしに養殖を進めることができないことがはつきりしました。

レダにて孵化を成功させるための技術指導をアスンシオン大学に依頼することにしております。

十二月に入り二週間ほどマルゴバレリオ水産学部教授に来てもらうことになっています。

(上山記)



マルゴバレリオ教授から説明を受ける中田氏、上山氏、佐野氏



今年一月に放流した稚魚5000匹の成長を調べる。ほとんどが順調に育っている。

各地で国際協力青年奉仕隊とレダ報告会



国際協力青年奉仕隊が九月九日に帰り、日本全国で支援金や切手、はがきを送ってくださった会員の方、また支援してくださった方を対象に活動の報告をいたしました。

特に今回は最終日に大統領を表敬訪問をし、今まで十一回継続して行ってきた奉仕隊の活動を報告する機会を持てたことは大きな進展でした。

報告に参加した方々は十一年間、毎年、奉仕隊を送ってきたことの重要性を感じたと話しておりました。

東京は青年たちと、名古屋、福岡、そして岡山では柴沼が報告をパワーポイントを使い行いました。



「パラグアイ・フェスティバル in TOKYO」

2011年10月2日(日) 10時～16時

・ 場所：練馬区光が丘公園(けやき広場)



「パラグアイ・フェスティバル」の目的と内容
日本から一番遠いパラグアイ国が大の親日国だといふことをご存知ですか？パラグアイは、南米の心臓(コラソン)といわれる、文化・自然の豊かな、人の優しい、開発途上の魅力的な国だと知っておられますか？また、パラグアイに移住したたくさんの日本人とその子孫(日系人)が、パラグアイの人と一緒にあって、東日本大震災への心のこもった支援活動を行っていることをご存知ですか？日本では知らない方がほとんどの南米・パラグアイ国を、「食」と「文化」と「日本との絆」をテーマに、楽しく知ってもらうことを目的とするフェスティバルです。また、当イベントの収益金は、パラグアイの貧困層支援ならびに、東日本大震災支援のために使われます。

(実行委員会からの説明)

国際協力青年奉仕隊の青年たちは日本に帰り、パラグアイで大統領にお会いした感激を手紙で表したいと皆で大統領宛に左記の寄せ書きを送りました。

「大統領とお会いし、とても素晴らしい時を持てました。特に大統領が世界平和について話された内容には感動しました。私は大統領がパラグアイを平和な国家として建設すると信じています。」平尾より

「大統領が私たち青年を心から温かくお迎えくださり、心から感謝しております。大統領が日本を訪れる時がありましたら私の働く寿司レストランにおいでください。お待ちしております。」福森より



第一五回ピースライフセミナー

(九月二十三日～二十四日)に参加して

「環境保全とより良き社会の実現は深くかかわっているのだということが分かりました。パラグアイレダでの開拓の歩みを聞き、出発は現地の人と同じ立場でシャベルで土を掘り、植樹活動を始め、宿舍を建設し、農園を造成しながら拡大していったというところがすごいことだと思いました。過酷な環境の中、その土地を愛し続けるという事は簡単ではないと思います。とてもやりがいのあることだと思います。それと同時に近隣の村への奉仕を継続することの大切さも分かりました。自分も時間を作り、今後、国際協力青年奉仕隊に参加したいと思いました。」

大学生の方の感想

南北米福地開発協会 会員の募集中

地球家族として 自然を守りましょう

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて

生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の

案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

<http://www.asd-nsa.jp>